## 裏妙義 中木川烏帽子沢左俣

2009/9/13

メンバー：L. 奥平 (記)、釣、白土、神戸

　秋の連休に向けての練習２回目、ホラノ貝に続き今回もゴルジュを意識して中津川の渋沢を選んでみたが天気はおもわしくない。入渓までに４時間ほどの山道を歩く予定が一時間ほど歩いた時点で雨も結構降っているので協議して全員一致で敗退することになった。案内所の屋根付き施設で着替えなどをしている最中も一向に雨はやまない。転進先を裏妙義の中木川烏帽子沢に定めて、途中巷で評判の八ッ場ダムを車越しに眺めたり、橋の下で焚き火をしてやり過ごして天候回復を待つ。

　翌朝、昨日とは打って変って快晴となった。国民宿舎の脇から工事中の道を辿り入渓、チョックストーン８m滝を巻き、懸垂１５mで沢に戻る。三俣に分かれているように見える真ん中を取る（二俣の左俣を取る）と程無く炭焼き窯跡が見える。水もなく、ガレが多くてパッとしないなと思って歩いて行くと、４～５mの逆層滝がある。水が浸みていてはがれやすい。調子に乗って取り付いて失敗すると大きな怪我はないかもしれないが、擦過傷が酷そうなので慎重に。白土さんリードで後の人はシュリンゲを借りたりしながら登る。８m滝は左岸から登るがホールドがあり見た目より容易。ロープを出して白土さんリード。

　小滝を２つ越えて二俣、左を取って６m滝に合う。取り付きが少し難しいので私のショルダーを踏んで白土さんリードで上にあげ、上の様子の返答を待っている時に右岸から落石があった。十分避けられるタイミングだったが、私は手や腰などを少し打ち、先の滝を登るのは困難な状況になったので左から巻きぎみに稜線を目指す。手が使えないのは不自由だが足は何ともなかったのでガレをあがる。

　予定していた左俣から右俣への周遊はかなわず、登山道で三方境を経て国民宿舎裏妙義に戻った。

　ゴルジュの練習には程遠い山行になったが、転進先の相談や事故が起きた時の対応などを通じてチームの結束や役割を確認することができ、天気に左右されながらも有意義な山行になった。

コースタイム：

7：40 国民宿舎　8：20 二俣入渓点　8：50 チョックストーン滝８m左岸を巻き　15m懸垂出で戻る、9：40 石窯跡地、ナメガレナメ、10：30 ナメ滝４m逆層ホールドはがれやすい、８m滝左岸から少し滝を離れて登る、４m滝、３m滝、11：30 奥の二俣、13：15 登山道　登山口 14：40

地形図：南軽井沢